人生わずか５０年といわれていたが、今はちがうらしい。未だ 86 歳。
８０，９０は洟垂れ小僧、まさか。こんなことはいわない。90 歳ともなれば「９０歳　なにが目出度い」と言いたくなるのが関の山。
後期高齢者，末期高怜齢者などの呼び方が通例になれば、国は年金支給ができなくなる、年金破綻、どうする。
年金については知らないが、我が国民の寿命は延びていることは確かのようだ。私が８６歳になっても後遺症をかかえて２１年の間不自由を抱えてながらも、のんべんだらりん、と生きてきた。何の意味があるの。
日本にはないがスイスにはある。「安楽死」条件にあえばの話。どうにも生きるのが辛い。死んだ方がいいという場合を医師が認めれば成立実施する。私の場合はたいしたことはない、もっとこの世を楽しみたい。
以前書いたエンデング・ノートを見ると、胃ろうは止めてくれ！無理やり生かしてなんになる。癌になったら痛みだけを止めてくれ、それ以上はほっといてくれ、天国よいとこ一度はおいで酒はうまいし・・・といわれている。こうなれば早く行きたい。
ところで、死んでしまえばどうでもよいが、家族葬がいいだろう。友人はとっくに行っている。お墓はまともな墓はいらない。墓石のでかいのを立ててどうする重くてしょうがない。それよりも軽やかに千の風になってみたい。骨は粉にして豪華客船を貸し切りにして太平洋に散骨がいいだろう。　私は千の風になってあの大空を吹きわっている。

エンディング・ノート　24/10/21　Hidekuro

貸し切り豪華客船